

報告

第5回男女共同参画フォーラム

常任理事 藤井 美穂

フォーラム開催の背景

「第5回男女共同参画フォーラム」が去る7月25日、札幌グランドホテルで開催された。

女性医師が増加してくる中で、出産・育児、介護などライフサイクルの中で直面する家庭生活と仕事量・内容のバランスの取り方が難しくなるという、従来からの問題がますます表面化してきた。一方、医療現場では医療費削減、新医師臨床研修制度が定着し、大学の地域への医師派遣機能が低下すると

もに、医師不足・医師偏在が問題となってきた。

これらを背景に、女性医師がその能力を医療現場で発揮し、キャリアを継続するための具体的方策を、ともに考え問題解決を図ることを目的に、日本医師会では2005年から「男女共同参画フォーラム」を開催してきた。

日本医師会男女共同参画委員会がフォーラム内容を企画し、初回が日本医師会館で、以後、大阪、横浜、福岡、そして今回が札幌と、東日本、西日本と交互で開催している。毎回大テーマを決め、テーマに沿った講演・シンポジウムの内容を組んでいるが、1年前からその構成、人選の準備をしている。

以下に示すとおり、テーマは女性医師問題から、医師全体の問題を扱う内容と変遷し、それとともにフォーラム参加者も男性が多くなり、まさに男女共同参画フォーラムにふさわしいものとなってきた。

- 第1回「女性医師は何を求め、何を求められているか」
- 第2回「女性医師バンクに関する諸問題」
- 第3回「医師の勤務環境の改善を目指して」
- 第4回「医療崩壊をくいとめるために、今なにができるか、何をすべきか」
- 第5回「今、医師の働き方を考えるーともに仕事を継続するためにー」

日 時：平成21年7月25日(土)午後1時～4時45分
午後5時～6時30分 懇親会
場 所：札幌グランドホテル2階「グランドホール」
懇親会場 同2階「金枝の間」
札幌市中央区北1条西4丁目 TEL：011-261-3311
主 催：日本医師会
担 当：北海道医師会

総合司会：男女共同参画委員会委員 藤井 美穂

開 会

挨拶 日本医師会長 唐澤 祥人
北海道医師会長 長瀬 清

基調講演「私の50+年史:ある心臓外科医の生き方」
テルモ株式会社 上席執行役員、
テルモハート社取締役会長兼CMO
野尻 知里
座長:男女共同参画委員会委員長 中川やよい

報 告

- 1. 日本医師会男女共同参画委員会
ー女性医師の勤務環境の現況に関する調査報告ー
男女共同参画委員会委員 春木 宥子
- 2. 日本医師会女性医師支援センター事業
日本医師会女性医師支援センター マネージャー
保坂シゲリ

ショートブレイク

シンポジウム
「今、医師の働き方を考えるーともに仕事を継続するためにー」
座長:男女共同参画委員会委員 秋葉 則子
男女共同参画委員会委員 川上 順子

1. 医師の働き方を変える

福岡県医師会男女共同参画部会委員会副委員長
香月きょう子

2. 医師の働き方を考える

ー育児支援中の男性医師の視点を通して
札幌医科大学耳鼻咽喉科学講座 正木 智之

3. 女性医師に対するキャリア教育

東京女子医科大学医学部長・小児科主任教授・
男女共同参画推進局副局長 大澤真木子

4. 地域医療連携の中での医師の働き方

札幌医科大学学長 今井 浩三

総合討論

座長:男女共同参画委員会副委員長 池田 俊彦
男女共同参画委員会副委員長 小笠原真澄

第5回男女共同参画フォーラム宣言採択

男女共同参画委員会委員 清水美津子

次期担当医師会会長挨拶

鹿児島県医師会長 米盛 學

閉 会

日本医師会常任理事 今村 定臣



第5回男女共同参画フォーラム

午後1時、唐澤日本医師会会長、長瀬北海道医師会会長の開会挨拶でフォーラムが開催された。

唐澤会長は、「今年度は男女共同参画社会基本法が制定されて、ちょうど10年目に当たり、国の取り組みも、女性支援の政策から男女共同参画政策へと転換が図られてきた経過の中で、性別を問わず、ワーク・ライフ・バランスを実現し、医師としての使命を継続することにより、医療崩壊をくい止めていく目標を、本フォーラムを通して考え支援していただきたい」と挨拶した。

長瀬会長は、「全国同様、北海道では医師不足の顕在による地域医療崩壊が強く、北海道医師会では北海道病院協会とともに医師派遣を行うことにより、何とか地域医療の崩壊をくい止める取り組みを行っている。道内の約1,000人の女性医師がそのキャリアを継続できるように、北海道医師会で行った病院管理者に対しての調査結果に基づいて、支援を行っていききたい。本フォーラムが、女性医師のみならず、医師全体の勤務環境の改善策を見出すきっかけになることを祈念したい」と挨拶した。

基調講演「私の50+年史:ある心臓外科医の生き方」

演者である野尻先生には、学ぶ場、働く場を変えながら、心臓外科医としてモチベーションを持ち続けてキャリアを積んできた、彼女の生き方を話していただいた。

野尻先生は昭和53年に京都大学医学部を卒業後、関連病院の心臓血管外科、昭和56年から東京女子医科大学・心臓血管外科研究所に勤務、その後アメリカに渡りユタ大学に留学、平成3年テルモ株式会社に入社している。同社で新型人工心臓の開発を行い、現在テルモ株式会社コーポレートCMOに就任。平成19年に、日経GP社第6回イノベーション賞、日経WOMANウーマンオブザイヤー2008大賞、平成20年には人工臓器学会技術賞を受賞している。平成20年10月のNHKプロフェッショナルに出演時、先生の情熱あふれる生き方をご覧になった方もおられるだろう。

シンポジウム1「医師の働き方を変える」

福岡県医師会男女共同参画部会委員会副委員長である香月きょう子氏は、「医師は仕事一筋ではなく、

ワークファミリーバランスも含めた仕事と人生の調和のとれた生き方を目指していくべきと思う。また現在の医療体制、すなわち主治医制、当直制、常勤医中心のあり方を転換することが課題と思われる」と主張した。

シンポジウム2「育児支援中の男性医師の視点を通して」

医師5年目、大学院生である正木智之氏は、妊娠7ヵ月で医学部を卒業、臨床研修を続けながら出産、90日の休暇を取得し今年12月に臨床研修を終了予定である妻とともに、2歳のお嬢さんを育児しながら臨床、研究を続けている男性医師の目を通して家庭生活と仕事の両立について報告した。

(1)育児しながらの臨床研修であれば、大学での研修が融通がきく(2)情報が共有でき、相談する仲間がいることが大切(3)病院付属の保育所に優先的に入れ、白衣のまま子どもの様子を見に行くことができる、など大学での研修はメリットがあるが、保育施設の時間、病気時の対応など種々の問題点が解決される必要性を話した。

シンポジウム3「女性医師に対するキャリア教育」

医学部長・小児科主任教授である大澤真木子氏は、以前は女性医師が頑張るか頑張らないかは個人的問題とされてきたが、最近は社会がキャリア継続をサポートするために環境整備をしていく必要があることが叫ばれるようになった。人生の目的は(1)自分に潜在する能力を引き出す教育の機会を得る(2)他の人と好ましい人間関係を作ること(3)他の人の人生に意味のある貢献をすること、といわれている。女性が次世代育成に直面した時、その特性上、男性とは異なる役割を果たすことになる。女性医師がモチベーションを維持しながら仕事を行っていくには、身近なロールモデルを見ながら、自分自身もリーダーシップを発揮できるように教育を受けていかなければならない。女子医大では、ライフサイクルを展望し、キャリア意識、専門職意識を育て、さらに共同する意識を育てるような教育プログラムを推進している。

シンポジウム4「地域医療と人間教育・医科大学の試み」

医科大学長として、今井浩三氏は、日本医師会の女性医師支援センター事業の業績に心強く感じたと述べた。北海道は女性医師第1号である荻野吟子さんが明治30年当時、医師のいない地域で大変な貢献を果たされた土地である。優秀な人材は、その育つ環境、教育が作り上げるわけで、医学教育の重要性は大変大きいものである。医師は患者さんと向き合い、何を考えているかを理解しながら医療を行わなければならない、医学教育の中で双方向性のコミュニケーション教育をしていくことが重要。学生時代に地域に入り、チーム医療実習を行ったり、死と向

き合い、ご本人と遺族の尊厳を理解するために対話を行うなどの教育を実践している。また複数の大学と連携しながら地域医療の担い手を育成するなど、男女共同参画の理念で北海道の地域医療を活性化する試みを行っている。

総合討論

「医師全体の勤務環境を変えるために、女性医師の切り口から取り組んでいく方法が実現性が高いのではないか」「女性医師のみならず、医師の労働環境を改善するという問題を発展させていかなければならない」「短時間勤務制度、ワークシェアリングなどを



推進するための補助金、保育サポート等さまざまな助成に関する情報が必要である」「熊本市医師会では医師会館内に病児保育、一時預かりなどの保育施設を作ることになった。このように各地で具体的な取り組みをしていく上で、ヒントになればと思い、報告したい」「男性医師の中に女性医師の育児と仕事の両立などに関し理解のある医師がいて、周囲の雰囲気よくなるので、理解と支援を進めていって欲しい」など、多くの意見が出された。

第5回男女共同参画フォーラム宣言

宣言

女性医師が勤務を継続するための環境の整備、制度の充実、施策の実践は重要である。女性医師、男性医師を問わず、安心して勤務できる環境があってこそ、初めて医師は自信と誇りを持ってその使命を果たすことができる。

すべての医師がその個性と能力を十分に発揮していくためには、社会全体の理解および医師、患者を含めたすべての人々の意識改革が求められる。

女性医師の働き方を変え、男性医師の働き方を変え、社会の意識を変えてこそ、医療崩壊から再生への道が開かれるのであり、その実現のために真摯な努力を続けていくことを、このフォーラムに参集した皆の総意のもとに宣言する。

平成21年7月25日

日本医師会第5回男女共同参画フォーラム

第5回男女共同参画フォーラムは男性131名、女性121名、計252名の参加で盛会裡に終了しました。まさに男女共同参画の名に相応しい参加者内容であり、当日ご多忙の中、参加していただきました会員のみなさまに感謝を申し上げます。

次回、第6回フォーラムは鹿児島で開催されます。来年も多数の参加をお願いいたします。

電子メールによる会員への情報提供について

— メールアドレスの登録 —

◇情報広報部◇

本会では、インターネットを利用し、電子メールにより緊急性の高い情報を、会員の皆様に送信提供しております。対象は当会の電子メールアドレス利用者全員と他プロバイダの電子メールアドレスをお持ちになっていて、本会にアドレスを登録している会員です。

他プロバイダの電子メールアドレスの登録につきましては、随時受け付けておりますので、是非ご登録いただきたくご案内いたします。

●電子メールアドレスの登録方法

電子メールで、ご氏名、登録メールアドレスを明記のうえ、下記宛お送りください。

・申込先メールアドレス：add@m.doui.jp